



新入生の皆さんへ

学長 赤路 健一

京都薬科大学に入学された皆さんならびに大学院に入学された皆さん、ご入学誠におめでとうございます。京都薬科大学の建学の精神は『愛学躬行』（学問を愛し、自ら実践する）です。学部ของ皆さんはこれからの6年間で薬学を含む自然科学の精妙な理（ことわり）を学び、自らの手を動かし（技）、心と体で大学の学びを体得してください。大学院の皆さんは、学部で経験した研究をさらに自身のアイデアで深め新たな学術の進展に寄与する研究に邁進してください。これからの6年間あるいは4年が皆さんにとってかけがえのない素晴らしい時間になるはずです。

21世紀における科学技術の飛躍的な進歩に伴い、ヒトの体と病気の理解も格段に深まりました。にもかかわらず、治療法がない疾患や感染症はまだ多く残されています。様々な種類のがん疾患をはじめとして、新型コロナに代表される新たな感染症の

出現やすでに終息したと考えられていた感染症の再出現も見られます。アルツハイマー病をはじめとする脳疾患や神経疾患もいまだ治療法が確立されていません。現在の科学知識では疾患解明に至らず、最新の医療技術をもってしても治らない病気はまだたくさんあると言わざるを得ないのが医療界の現状です。

薬の専門家とされる薬剤師も、このような現実をしっかりと把握し何ができるかを自ら考え行動しなければなりません。薬剤師は、病気あるいは病気になる可能性のある人を広く対象として、病気の治療と予防に貢献する職業です。病院や薬局で薬の調合を行うだけではなく、その薬の効果と限界をきちんと患者さんに理解していただき、さらには服用管理や症状・副作用モニターまで行う必要があります。一方で、患者さんに直接かわらなくとも、新しい薬のアイデアやシーズを探り、治療薬に結びつけるの

CONTENTS

■ 特集

本学の学生実習（実験実習）について 5

■ ご挨拶

新入生の皆さんへ 学長 赤路 健一 1
定年退職のご挨拶 2
新任のご挨拶 4

■ イベント

2022年度合同多職種連携教育(IPE)研修会 15
白衣授与式 18
2022年度社会人力養成講座を実施しました 18

■ 報告

3年次生の吉永紗桜さんが京都市山科区役所の
山科魅力発信動画に出演しました 22
受賞・掲載 23
京都薬科大学奨学寄附金芳名録 24

■ スペシャル企画

学長が卒業生の今に迫る
現役薬務課長に聞く！公務員薬剤師の魅力とは 8

■ コラム

私の薦める、私の一冊 17
事務局お仕事紹介 17
卒業生からのメッセージ 20
十人十色 21
学生相談室だより 22

■ お知らせ

人事 4
奨学金について 12
2023年度学費等の納入について 14
2023年度オープンキャンパス開催のお知らせ 14
生涯教育センターからのお知らせ 16
京薬会だより 19
Library News 20

も重要な仕事です。また、新しい薬の有効性を臨床的かつ学術的に検証することも任務の一つです。

京都薬科大学における6年間の学びは、このような多様な薬剤師の役割を果たすための基礎を作るためのものです。国家試験に合格し薬剤師として様々な形で社会への貢献を始めるために必要な知識や実践は大学で十分習得できます。しかし、日々更新される学術的知見の蓄積にきちんと対応し、社会で認められる薬剤師になるために必要かつ十分な知識と経験は、卒業後も自己研鑽で学び取っていかねばなりません。そのための基盤を作るのが大学での学びです。学部で得られた知識と経験を学術的に昇華させ、広く世界に通用する知見とするのが大学院での学びです。

大学での学びがこれまでの学びと大きく異なる点は、答えのない問題に向きあうことです。高校までの学びにおける問題には必ず正解がありました。しかし、大学で向き合う課題にはその解決のために何が問題なのかをまず見つけなければなりません。しかも、問題の解決に必要な基礎的知見がすでに得られているとは限りません。また、たとえ知られていたとしても様々な解釈が可能です。正解が一つだけ存在するわけではないのです。一つの例を挙げます。19世紀半ばロンドンでコレラが大流行しました。その当時、細菌の存在は知られていませんでした。つまり、正しい原因には誰もたどり着けないなか、様々な説が提案されていました。圧倒的に有力な説が、悪臭が原因であるとする瘴気説でした。そのような状況で、コレラの発生状況のデータ解析から、コレラの原因が汚染された水であることを主張したのがジョン・スノーという麻酔医師でした。今

では、統計学（疫学）の有用性を示す最初の代表例として説明されることが多いのですが、当時は全く相手にされず認められるのに20年以上かかりました。皆さんがこれから取り組む課題がこのような問題解決を必要とする可能性を心にとめておいていただければと思います。

一方で、大学時代は自己の内面に向き合い自分でも気付かなかった新しい側面を見つけるのに最適の時期でもあります。そのために、勉学はもちろんですが今までできなかったいろんな活動にチャレンジしてみてください。クラブ活動やボランティア活動であってもアルバイトでもかまいません。海外を自分自身で経験するのもいいでしょう。また、今まで縁のなかった様々なジャンルの読書にもトライしてみてください。大学院に進学される皆さんには、在学中あるいは修了後に海外の研究室を経験することを強く勧めます。研究に対する思考回路の違いを実感されるのではないかと思います。

我が国の人口構成の変化と情報化やAI技術の飛躍的進歩に伴い、医療界もこれから大きく変貌すると予想されています。遠くない将来（皆さんが卒業する6年後です！）、デジタル化時代に即した新しいスキルとハートを持った薬剤師、ヒトと病気に向き合う薬剤師、チーム医療で薬の専門家として認められる薬剤師、が求められるでしょう。このような次世代の薬剤師を目指して大いに研鑽を積むとともに、卒業後も研鑽を続けてください。と同時に、大学あるいは大学院時代でしかできない新しい挑戦にトライしてください。皆さんの規律ある自由奔放な大学生活を大いに期待しています。

定年退職のご挨拶



病態薬科学系
臨床薬理学分野

なかた てつお
教授 中田 徹男

1997年、私立薬系大学としてはまだ珍しかった「臨床薬理学」教室が設立され、故朝山 純先生に従って着任いたしました。前任地の京都府立医大に比べ、研究施設も資金も整い、何よりもやる気満々の元気な学生さん達と、笑顔で親身にお世話してくださる職員の皆様の温かさに包まれながら、26年があっという間に過ぎました。4年制の当時、初めて担当した講義、3年次「臨床医学概論」は選択科目にも関わらず、300人近くの学生が受講してくれ、臨床現場での患者さんとの

話を目を輝かせて聴いてくれたことが今でも脳裏に焼き付いています。学生たちは教室のイベントにも積極的に参加してくれ、学園祭の教室対抗カラオケダンスは、最後まで連続出場を果たし、「元気な臨薬」を育ててくれました。教室内の人間関係も風通しが良かったようで、記憶だけでも20組近くの家族が誕生しました。毎年、元気な学生さんが入れ替わり参加してくれたので、私も気持ちだけは若いまま、気がつけば定年を迎える歳になっていました。6年制が始まり、学生達も何かと忙しくなり、コロナ禍で様子も一変しました。老兵は去るのみですが、学生、教職員の皆様の新時代でのご活躍を陰ながら祈念しております。長年に渡りまして誠に有難うございました。



医療薬科学系
薬剤学分野

やまもと あきら
教授 山本 昌

この度、2023年3月末で京都薬科大学を定年退職することになりました。私は、1991年1月に恩師の村西昌三先生にお声かけを頂き、京都大学薬学部から本学の製剤学教室（現在の薬剤学分野）に助教授として着任致しましたが、以来今日まで32年間にわたり、皆様方の御協力により、薬剤学の教育・研究に励むことができ、改めて厚く御礼申し上げます。

教員生活を振りかえってみると、「光陰、矢のごとし」という言葉が当てはまるように、本当にあっという間に時間が過ぎてしまった印象です。従いまして、まだ自分が定年退職するという実感があまりわきませんが、本学では教員、職員のみならず色々な学生との出会いがあり、それが私の貴重な財産になっていると実感します。

最後になりますが、定年退職までの教員生活を支えて頂いた多くの教員、職員、大学院生、学部生、現教室員の方々に感謝申し上げます。皆さん、本当にどうも長い間、御世話になり有難うございました。今後の皆様の益々の御健勝ならびに御発展をお祈りし、退職の挨拶とさせていただきます。



薬学教育系
学生実習支援センター

この きょうこ
助教 河野 享子

京都薬科大学での教育・研究に携わる機会を与えて頂き、また、大過なく職務をはたし定年退職できますのは、良き上司、同僚そしてどの職員にも恵まれたおかげです。皆様に心より感謝申し上げます。

私は、1989年1月に、理化学研究所つくば研究センター流動研究員から、新設の生命薬学研究所（現S棟）遺伝子工学部門（分野）に助手として着任いたしました。専門分野では、学部、修士及び博士後期課程の研究に関わり、研究生生活を通してそれぞれの

学生と喜怒哀楽を共にする充実した時間を過ごしました。また、薬学6年制になり、2008年4月に設置された学生実習支援センターに異動しました。実験実習では、大学の実習を初めて行う緊張感一杯の1年次生から2年次生、3年次生と様々な技術と態度を習得していく学生の成長を頼もしく感じたことは忘れられません。京都薬科大学の人材育成に少しでもお役に立てていれば、この上ない喜びであります。本学での34年2カ月の経験は、その全てが得難い思い出であり、貴重な財産となっております。

最後になりましたが、学生・職員の皆様のご健勝とご多幸、並びに本学のますますのご発展をご祈念申し上げ、定年退職のご挨拶とさせていただきます。



事務局参事 さかぐち よしみ
兼 庶務課長 坂口 義美

私は、ご縁をいただき2017年7月に初代調達検収室長として採用されました。また、2018年4月には庶務課長に配置換、2022年4月には事務局参事として、着任から今日まで、前職で培った経験とノウハウを活用し、「本学の役に立ちたい」という思いで業務に携わってきました。（力不足ではありましたが。）

今日までの5年9ヶ月の間には、歴史と伝統のある「京都薬科大学」の威厳というものを、また、卒業生の母校に対する想いと期待というものをひしひしと感じました。これからも、薬学に関する教育研究

を介して近未来の医療を創造し続ける「京薬」の活躍を期待しております。

話は変わりますが、教職員組合主催の忘年会は、多くの教職員が参加され役員も招待参加されているユニークで楽しいイベントですので、年始の集合写真と共に、是非、本学の名物イベントとして継続していただければと思っております。

最後になりましたが、本学の学生、教職員及び役員の皆様のご健勝とご多幸並びに本学の今後の益々の発展を祈念申し上げ、定年退職の挨拶とさせていただきます。大変お世話になりました。

4月以降も別の形で事務業務に従事させていただく予定ですので、もう暫くお付き合い願います。



事務局
研究・産学連携推進室

たけの かおる
室長 武野 薫

私は2014年9月に製薬企業から本学に出向し、2016年10月に転籍により本学に入職いたしました。以来、事務局 研究・産学連携推進室において、本学の研究力最大化および研究の信頼性を担保するためのコンプライアンス推進に関する業務に携わってまいりました。以前より、医療の進歩および充実の観点から、薬学研究の重要性を痛感しておりましたので、高い研究力を有する本学でこれらの業務に携われたことに感謝しております。また、微力ながらも

お役に立つことができたのであれば幸いです。

製薬企業におりましたときには、アカデミアの研究者は、企業研究者のように所属機関の方針によって研究テーマの変更を余儀なくされることもなく、ひたすらご自身の研究に打ち込んでおられると考えておりましたが、本学に来て、6年制薬学部では先生方が研究の時間を割いて教育に多くの力を注いでおられることを知り、学生の皆さんも熱心に試験勉強をされていることに驚いたものでございます。

学生として教育を受け、社会人として最後の9年足らずの期間にご縁をいただきました京都薬科大学が、今後も薬学研究と教育の重責を果たしていけますよう、願っております。

新任のご挨拶



事務局
調達検収室

かねさき あかね
事務員 金寄 茜

2023年1月1日付で調達検収室へ配属となりました、広島県出身の金寄茜と申します。この場をお借りして皆様へご挨拶申し上げます。

前職では製薬会社に勤務し、支払処理や年次決算などの一連の経理業務、販促品の改版や発注管理といった薬局向け営業サポート業務に携わっておりました。

予てから教育に携わりたいという強い想いを胸に秘めておりましたので、この度ご縁をいただきましたこと、心の底より嬉しく思います。初日より緊張の嵐でしたが、皆様に優しくお心遣いをいただきまして、本日までやってこれました。深い深い感謝の気持ちでいっぱいです。

マイペースな性格で、お話を聞くのが好きなので、気軽に声をかけてくださると嬉しいです。歌とアウトドアが趣味ですので、職員の方々の間で機会がございましたら是非一緒させていただけますと幸いです。また、業務につきましても、何事もまっさらな気持ちで一から吸収してまいります。本学の発展に貢献できるよう努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

NEWS 人事

採用

事務局調達検収室
事務員 金寄 茜
(2023年1月1日付)

兼務

事務局実務・生涯教育課 課長 井本富美代
兼務 事務局進路支援課担当課長
(2023年1月1日付)

再任

分析薬科学系代謝分析学分野 助教 内藤 行喜
(任期：2023年1月1日～2027年12月31日)

任命

事務局進路支援課 課長 高田 眞介
(前 事務局進路支援課担当課長)
(2023年1月1日付)

配置換

事務局実務・生涯教育課 課長 井本富美代
(前 事務局進路支援課課長)
(2023年1月1日付)

退職

病態薬科学系薬理学分野 助手 田村 裕穂
(2022年12月31日付)

Feature article.

最後になりますが、学生の皆さんには実験実習を実りのあるものとするために、1) 準備に時間をかけ、2) 目的意識を持って「単なる作業」とならないように、3) 実験中は楽しんで、4) 体験した内容を理論や原理と結びつけること、を期待しています。

藤原 洋一
高尾 郁子

学生の皆さんは様々な実験を通じて、医薬品を含む化学物質への理解、生体構造及び機能調整などの知識、環境と人の健康の関連への理解といった薬学の知識を深化させ、学んだ知識や理論が医療現場を含む社会にどのように実装されているかを実験実習で実感してください。そして3年次後期から始まる研究活動や将来の実務に活かす技能を獲得していきましょう。



本学には化学実験、動物実験や遺伝子組み換え実験等、様々な実験環境に対応した実習室があります。愛学館には3部屋（A22、A34、A43実習室）と躬行館に1部屋（Q35実習室）が設置されています。各実習室の収容人数は96名です。そこで本学では、実習室の収容人数に合わせて1学年を複数グループに分けて実習を実施しています（2023年度は、1年次生は6グループ、2・3年次生は4グループで実施予定）。グループ分けと実習日程は各学年の学期はじめ（1年次生は後期開始後）に発表されます。学生の皆さんはご自身が所属するグループと各科目の実習日程を確認し、指示された日程・集合場所で受講するようにしてください。



実習科目は全日出席することが必須の科目です。遅刻・早退は認められません。病気、その他やむを得ない事情（履修規程第9条に準ずる）以外の欠席も原則認められません。また各学年で全ての科目を修得していないと次の学年へと進級することができなくなりますので、未修得とならないように自己管理をしっかり行って履修するようにしましょう。

薬学では物理、化学、生物などの多様な領域をバランスよく学び、そしてこれらを基盤とする応用科目を学ぶことで、薬を中心とする科学を多面的に理解し修得することが必要です。そのため本学では、1～3年次に多様な領域の実験実習を実施しています。

1 年 次		2 年 次		3 年 次	
後期	前期	後期	前期	後期	
基礎科学実習	分析化学実習	解剖学・生理学実習 物理化学実習	有機化学実習 生化学実習 機器分析学実習	栄養化学実習 公衆衛生学実習 薬理学実習	天然医薬品学実習 微生物学・免疫学実習 薬物動態学実習 薬剤学実習

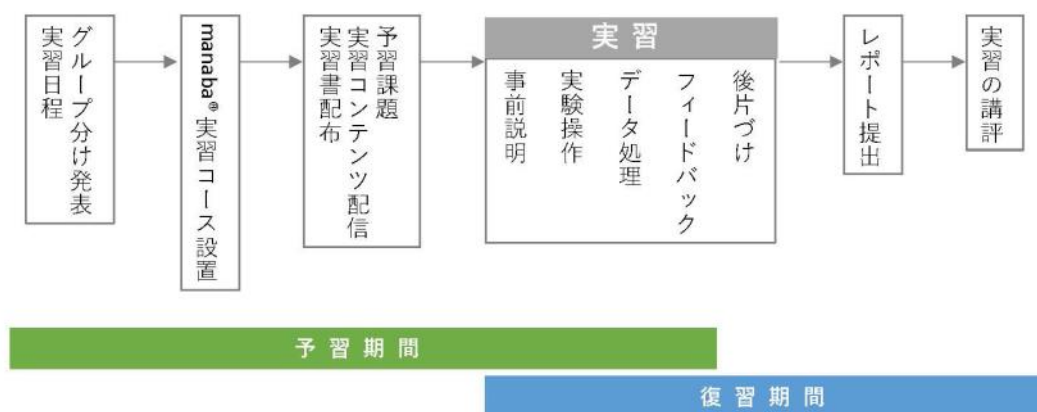
専門基礎

薬学専門教育（実習等）

1年次後期に実施する「基礎科学実習」では、専門基礎として2年次から始まる薬学専門教育科目に先立ち、今後必要となる基礎的な科学実験に関する知識、試薬の調製方法、実験器具や測定機器の使用法、顕微鏡観察について学びます。本実習は様々な学習経験の差に対応していますので、高校までに実験経験が少ない方も安心して取り組んでいただけます。2年次以降は専門薬学教育となり、1年次に学んだ基礎的な実験知識や技能を土台にして医薬品を含む化学物質の分析、合成、生理活性の評価、また組織標本の観察や薬剤の剤形設計など、専門性の高い内容の実験を行います。

各実習科目は概ね下図のような流れで実施しています。

■ 実験実習の流れ



書画カメラを利用した実演

実習のお知らせは本学の学習管理システム（LMS）であるmanabaから発信されます。情報の取りこぼしがないように定期的に確認するようにしましょう。事前に配布される実習書や実習コンテンツは、当日の実験を安全かつスムーズに進めることを目的に提供されています。受講する実習科目はどのような目的で何を行うのか、どのような点に注意をして進めるべきかなどを事前に確認したうえで実習に臨むようにしてください。

実習当日は、最初にどの科目もその日の実験の目的や手順の確認、観察してほしいポイントなどの説明がスライドや書画カメラを利用して行われます。実験はこれらの事前説明を受けたのちに開始します。

実験はその特徴に応じて単独で行う場合と、複数人で班になり協同行う

場合があります。いずれの場合においても、わからないことがあります。いつでも教員のサポートを受けることができます。また各実習室では学生同士で話しあい、サポートしあいながら協力して実験を進めている光景も多くみられます。教員のサポートに加え、本学の实習では、わからないところは相談する、知っているところは教えあうなどの文化がありますので、現時点で実験の経験がない方や自信がない方も、過度に不安を感じることなく参加していただきたいと思います。



■ 安全に実習をするために

実験実習では様々な試薬や器具・機器を使い、大勢の受講生が一斉に実験を行うことから安全管理が欠かせません。実習中は薬品等から身を守るため、白衣と保護メガネを着用します。必要に応じて手袋を着用する場合もあります。特に危険な操作は、教員の指導の下、ドラフトチャンバーや安全キャビネットなどを使用し、安全に留意しながら実施されます。また常時教員が巡回し、危険回避に努めています。



実習中の様子

事故やケガを未然に防ぐには、教員の指導に従うことはもちろんのこと、実験を始める前の準備と心構えを確認し、確実に実施することが必要です。また、起こりうる結果やリスクをあらかじめ調査、予測しておくことも学生の皆さんに求められています。実習室の安全はみんなで守るという意識を持つようにしてください。

■ 学習効果向上のための取り組み

実習では限られた実習時間の中で受講生の皆さんが実験に取り組みやすく、また効率よく効果的に学修できるよう様々な工夫を行っています。

● 「事前学習教材 操作ビデオ」

実習では多くの実習器具・機器（左下図）を使用します。これらは正しく理解した上で使用しないと正確な実験結果を得ることができません。そこで本学では、器具や機器の取り扱いを動画で解説する操作ビデオ（右下図）を提供し、manabaからいつでも視聴できるようにしています。また実習室に設置されているタブレット端末で見ることも可能です。操作ビデオは限られた実習時間の中で、受講生が必要な技能を効率よく効果的に修得できるよう考慮して作成されています。事前学習や実習内での確認、また実習後の復習に活用してください。



実習で使用する器具・機器一覧



操作ビデオ

● 「ICTを活用したデータ収集とフィードバック」

実習における理解度や技能の向上を目指すには、最適な課題の設定と得られたパフォーマンスに対するフィードバックが必要です。そのため実習では、教員が受講生の理解度や技能修得状況を把握するために、タブレット端末やLMS等のシステムを利用し、定期的に実験データやアンケート調査を実施しています。得られた情報から受講生の状況に応じて指導法を工夫したり、実習内容を検討したりするほか、受講生に対して様々なフィードバックを実施しています。

● 「京薬生のためのアカデミック・スキル」、「理系薬学版アカデミック・スキル」冊子の配布

入学時に本学独自のアカデミック・スキルに関する冊子が入学時に2冊配布されます。「京薬生のためのアカデミック・スキル」には、本学での実験実習への取り組み方や心構え、レポートの書き方のヒントなどが書かれています。また「理系薬学版アカデミック・スキル」には、実験で得られたデータの取り扱いに必要な数値的スキルや結果の論述や口述を行うための方法などが詳しく書かれています。これらの冊子は、実験実習は言うまでもなく、その後の総合薬学研究においても参考になることがたくさん記載されていますので是非活用してください。

■ 実験実習に取り組む学生の皆さんに期待すること

実験実習は学生の皆さんの貴重な時間と多くの資源を用いて実施されています。このような実験実習の機会を有意義なものとするために、私たちは皆さんが実習に主体的に参加し、以下の3つの“気持ち”を忘れないでほしいと望んでいます。

- ・ 事前の学習・準備をぬかりなく行う
- ・ 目的意識を持って実験に取り組む（実験を作業化しない）
- ・ 実験を楽しむ

実験実習は限られた実習時間内に受講生が結果を出せるように設計されています。そのため、事前の知識が乏しくても指示されたとおりに手を動かせば何らかの結果を出すことができます。そのような背景から、事前の学習・準備をせず、言われたまま作業を行い、とりあえず結果が出ただけに満足して実習を終えてしまう様子も見受けられます。残念ながらこのような取り組み方では、得られる学習効果はほとんどありません。実習は実験



における自然科学の現象から、これまで学んだ理論や原理を確認することができる絶好の機会です。事前の知識を持って臨めば、視野が広くなり、実験で観察される自然現象を楽しむことができるようになるでしょう。また実験に面白さを感じれば、関連する知識の修得、さらにはその理論学習の必要性の気づきや取り組みにつながります。

これから実習に臨む皆さんには、実験実習の意義をもう一度確認していただき、是非とも主体的にかつ楽しみながら実験実習に参加されることを期待しています。

学長が卒業生の **今** に迫る

現役薬務課長に聞く！公務員薬剤師の魅力とは

2022年4月以降、近畿2府4県の薬務課のうち、大阪府、滋賀県、奈良県でいずれも初めて女性薬剤師が薬務課長に就任されました。実は、この3府県の薬務課長の皆さんは本学の卒業生です。今回は、大阪府と滋賀県の薬務課長として活躍されている石橋真理子さん（大阪府）と辻朋子さん（滋賀県）に、学生時代の学びから就職、そして現在…公務員薬剤師としてのやりがい、求められていること、先輩として本学学生へのアドバイスやメッセージなどについて、お話を伺いました。

学長 赤路 健一



■大学の学びは今でも役立っている

学長：本学への入学のきっかけについて教えてください。

石橋：もともと工学部志望でしたが、友人に誘われて、本学を受験しました。結果として、工学部にはご縁がなく、薬剤師の資格を取得できるならと本学に進学しました。

辻：私は、幼い時に会った薬局の薬剤師さんに憧れて薬学を志望しました。当時から、本学は伝統ある薬学部というイメージがあり進学しました。

学長：在学時代は、どのような学生生活でしたか？

石橋：応用薬理学教室に所属しており、研究室の先生の授業にとっても興味があり、大好きでした。大学時代で一番印象に残っているのは、研究活動や実験ですね。研究室や大学の授業で学んだことは、

今の仕事でも役に立っています。

辻：私は、薬品物理化学教室に所属していました。当時おられた女性の先生にお世話になって、卒業後もお会いしたりしていました。部活はバレーボール部に入部しましたが、毘沙門堂までのランニングが辛くて、途中でマネージャーに変わりました（笑）入部した当時のキャプテン（3年次生）が、リーダーシップがあって明るく、スーパーウーマンみたいな人で。とても尊敬していたのを覚えています。

■別の希望進路から公務員の道へ。府県によっても異なるキャリア形成

学長：行政職に就こうと思われたのは？

石橋：当初は公務員になるという選択肢がなく、卒業後は、化学系企業に就職したんです。でも、そこでは女性は「結婚＝寿退社」という風潮があって。それに落胆して、民間病院の薬剤師に転職しました。その後、友人から府立病院は長く勤められると聞き、公立病院で勤めるために公務員試験を受験しました。入庁後、母子センターの薬剤部で3年の経験を経て、薬務課に異動。病院で調剤等の現場経験をしていたことは強みになっています。

辻：就職活動では、当時ほとんどの学生が病院、企業、大学等での研究を志望していて、私も最初は病院志望でした。友人の公務員試験合格を聞いて、公務員の道を知ったことがきっかけです。



いしはま まりこ
石橋真理子さん
大阪府健康医療部生活衛生室
薬務課長
出身校：大阪府立生野高校
研究室：応用薬理学教室
(1988年卒業)



つじ ともこ
辻 朋子さん
滋賀県健康医療福祉部
薬務課長
出身校：滋賀県立膳所高校
研究室：薬品物理化学教室
(1989年卒業)

学長：都道府県によって、異動やキャリアの進み方は違うのでしょうか？



石橋：大阪府の行政職である、薬務、食品衛生、環境衛生の3課では、異動はなく配属後は固定です。現在は、他の業務も学ぶために、3課で人事交流を行っています。

辻：滋賀県では異動があり、希望を出すこともできます。保健所だと、薬務、食品衛生、環境衛生、水道等1つの担当課で対応が必要となるため、すべての業務ができる人が多いです。

学長：なるほど。大阪府ではスペシャリストに、滋賀県ではジェネラリストになっていく。都道府県の特徴や規模によって異なるのですね。

■公平さを第一に、個々に合わせた対応も

学長：公務員の仕事は、民間と働き方や考え方が異なる部分があると思います。公務員であることの特性や特徴はどういうところだと考えますか？

石橋：企業のように営利目的ではなく、広く公平な対応が求められるところ、また、法律を十分に理解して業務にあたることも重要ですね。医薬品の製造管理や品質管理を調査するGMP適合性調査に関する業務では、業務の性質上、経験を重ねていくことも必要です。

学長：滋賀県は地場産業が多いですね。そういった点でも行政の役割は重要であると考えますが、いかがですか？



辻：滋賀県は古くからのメーカーが多いのですが、各施設に応じて作成された手順書や指針が適正であるかの判断が難しいですね。「イコールコンディションの原則」を心掛けています。

学長：一方で、杓子定規な対応をすると、民間側としては、「書類が整っていれば問題なし」という感覚になる可能性がありますよね。

辻：そうですね。書類のひな型の会社名のみ変更して作成され、実態と合っていないこともあります。行政側も、勉強して注意しないといけません。

石橋：大阪府は、薬事審議会の下に部会として、医薬品等基準評価検討部会と医療機器等基準評価検討部会などがあります。中小企業が多く、モノづくり

は得意ですが、GMPやQMS（品質管理システム）の手順書の作成対応が難しい。手順書の見本を作成し公開していますが、辻課長もおっしゃったように、見本の企業名だけを変えて使用されていることも多いため、個々の企業に合わせた内容の手順書を作成してもらえよう時間をかけて指導をしています。

■薬剤師の役割や公務員の仕事にも変化

学長：薬剤師の役割・業務が調剤中心から対人業務へと変化する中で、行政として、薬剤師の新たな役割への対応については、かかりつけ薬局を認定する際の基準などから働きかけておられるのでしょうか？

石橋：そうですね。地域連携薬局の認定制度ができて以降、薬局から病院に情報提供するトレーシングレポートの活用について、病院側が必要とする情報を把握し中身の充実を図っていきたいと思っています。

辻：滋賀県では地域連携薬局を増やしていきたいという方針があるので、保健所にある医療福祉連携係に薬剤師を配置して、地域の薬剤師会が医療・介護関係者とうまく連携できるような方策を考えてもらう取り組みを始めています。

学長：公務員の業務は、定型業務や書類業務だけでなく新しい業務内容も考え、取り組むことが必要ということですね。

辻：6年制薬学部卒業の方は大学で地域包括ケアについても学んでいるので、地域連携等の新たな取組にも積極的です。

学長：6年制最大の特徴は実務実習で臨床現場を経験している点ですが、4年制卒業生との違いは感じますか？



地方公務員の薬剤師のお仕事とは？

下図のとおり、主に「監視・指導」、「試験・検査」、そして病院での「調剤」の3つに分けられます。

〈図〉

地方公務員 薬剤師職

監視・指導

- 各種許可、立入検査、行政検査
- 一般的な指導
- 相談・普及啓発活動

薬事監視員

環境衛生監視員

食品衛生監視員

試験・検査

- 監視・指導等をおこなうために必要な科学的根拠の追究
- 感染症関連検査、水質検査など

検査技師

調剤

- 公立病院薬剤部での外来調剤や病棟業務
- 患者への服薬指導

石橋：6年制卒業生は、学会発表の経験も豊富で、大勢の前で臆することもなく発表されていて凄いですね。面接の際も、薬物乱用防止やジェネリック推進業務にも積極的に心強く感じています。

辻：たしかに、人前でのお話に慣れておられる方が多いですね。問い合わせの電話もそつなく対応され、メールでの対応も問題ないです。

学長：本学出身者に対してはいかがですか？

辻：皆さん一生懸命与えられた仕事をきっちりこなされています。

石橋：大阪府も最近は本学出身者が増えてきました。指導したら着実に成長される方が多い印象です。本学出身の皆さんにどんどん入ってきてほしいですね。



■ COVID-19対応を経て、 求められる新たな資質と能力

学長：最近では、COVID-19対応がとても大変だと思いますが、いかがですか？

石橋：大阪府では、治療薬やワクチンがまだ無い中で、府内の大学の研究シーズを医療機関の治験につなぐため、大学と医療機関と府市で連携協定を結びました。また厚労省のワクチン・治療薬の開発状況について情報を部内に共有するなどし、薬理学的な専門知識をもとにコメントを求められることもありました。

辻：滋賀県では、当初は保健所への応援業務もあり電話対応も全て職員で行っていたので、本当に大変でした。先にお話したように、滋賀県では色々な部署を経験している職員が多いので、保健所応援もすぐ対応することができたのは幸いでした。今はようやく落ち着いてきたところです。

学長：COVID-19を契機に、公務員に対して、これまでとは異なる資質が求められるようになったと感じますが、現場の印象として、どのような人材がこれから必要になると思いますか？

石橋：医療機器についての知識を持った薬剤師は必要であると思います。在宅医療の現場では、医療機器を使用している患者さんがたくさんおられますが、薬剤師は医療機器について学んでいません。人工呼吸器のハンドブックを作成することになったときは、薬剤師から「どうやって動いているの？」という質問も出たくらいです。今は、薬剤師会で医療

機器の研修をしてもらうなど、学ぶ機会を増やしています。できれば、大学でも医療機器を知る授業をしてもらえるといいなと思います。

学長：やはり、卒業後も継続して学びつづけることが重要ですね。大学としてもリカレント教育での学び直しの場などで積極的に伝えていきたいです。

辻：時代が変わっても人と接する仕事は続いていくので、対人力は大切だと思います。コミュニケーション力は必要ですね。

学長：よく学生にも伝えていることですが、コミュニケーション力＝世間話やお喋りができる力ではなく、相手の要望をくみ取ったり提案したりできる能力ですね。今の薬学生に一番求められている能力は何だと思いますか？

石橋：コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力ですね。行政の職員はプレゼンがとても上手な人が多いんですが、素晴らしい企画をもっているそれをかみ砕いて、しかも簡潔に本質をぶれずに伝えていく必要があります。また、どなたに伝えるのかによって工夫も必要です。目的に合ったプレゼンができる能力が必要です。

学長：予備知識がない人へも一定制限下できちんと言いたいことを伝えられる能力ですね。

辻：最近だとDXへ対応できる能力も求められています。庁内でもDX推進の風向きにはなっていますが、関連研修に手を上げる職員は数少ないです。

石橋：大阪府でもDX推進はまだ途上です。ITを専門に扱う部署はありますが、なかなか変わらないですね。



■ 本学の学生に伝えたいメッセージ

学長：本学では7割程度が女子学生ですが、彼女たち、あるいは公務員を目指す学生に対して行政現場のトップとして伝えたいことはありますか？

石橋：仕事をする上で、性別を特別意識することはありません。もちろん、結婚されて出産されるとなると女性ではありますが、多くの女性職員が両立しています。民間よりも両立しやすい環境だと思います。

辻：滋賀県では、80数名の薬剤師職員のうち約半数が女性で、働きやすい職場だと思います。研修などの機会も多いので、家庭と両立しながらスキルアップを目指す女性職員も多いです。

学長：就職活動に関してのアドバイスなどがありますか？

辻：近年は毎年採用募集をしていますが、応募が少ないのが現状です。公務員が何をしているのかわからない学生さんが多いようです。説明会を通して、もっと公務員の仕事を知ってもらいたいですね。

石橋：大阪府ではかなり手厚いプログラムのインターンシップを行っています。ぜひ参加いただき、参加した学生さんからも他の学生の皆さんに情報共有していただきたいです。また、就職活動としては、薬局と併

願される方も多いです。福利厚生や長い目で見た場合、公立病院や公務員も決して待遇は悪くないことを知っておいてほしいですね。

学長：大学としてもしっかり正しい情報を学生に伝えていきたいと思います。率直なご意見や現場でのお話を伺うことができ、大変参考になりました。今後とも本学の後輩たちをどうぞよろしくお願いします。

本日はありがとうございました。

薬学生の進路は多岐にわたり、様々なフィールドで活躍することができます。その中の一つとして、公務員という選択肢があります。今回の薬務課長お二人のお話から、公務員薬剤師の仕事の魅力を知っていただき、学生の皆さんの就職先の一つとして検討してみるきっかけとなればと思います。

本学の進路支援課では、学年の進行に合わせた支援ステージが設けられ、様々なプログラムが提供されています。自分自身の将来をしっかりと考え、希望する進路を掴みとるために、学内合同説明会やセミナー、インターンシップなどの機会をぜひ積極的に活用してください。

■2023年度 公務員に関するセミナー等のご案内

●公務員理解セミナー

日 時：2023年5月11日（木） 13:30～16:30

形 式：対面講義形式 + オンラインLIVE併用（Microsoft Teamsを活用）

趣 旨：最前線でご活躍されている現役公務員の方々にご講演いただき、卒業後の進路としての公務員職の業務内容及びキャリアパスなどについて、学生が理解を深める機会を提供します。

また、「教養試験」対策を中心とした公務員試験対策講座の内容を紹介します。

対象者：公務員職に興味を持つ学生（全学年、大学院生）

講演スケジュール：（質疑応答）

①13:30～14:30 国家公務員職 厚生労働省

②14:40～15:40 地方公務員職 大阪府

③15:50～16:30 講師：東京リーガルマインド 大阪法人事業本部

本企画に掲載の石橋さんを
講師としてお迎えする予定です！

●公務員試験対策講座

国家公務員総合職・地方上級公務員・公務員試験を要する公立病院等に対応した講座です。資格取得支援予備校の講師による講義や、面接練習を受けることができます。公務員試験に関する情報提供も受けることができますので、ぜひ活用してください。申込方法等の詳細はmanaba等を通じてお知らせします。

【講座構成】

I. Web講座（6～10月開講）

・数的処理・文章理解・社会科学・人文科学・自然科学・SPI対策

II. 面接対策講座

・自己分析から演習まで

※上記以外に、面接情報・試験情報や過去問の提供、応募書類の添削、質問・相談にも随時対応しています。

●関西3薬科大学 公務員職種理解セミナー

日 時：2023年 8月下旬

形 式：オンラインLIVE

上記セミナー、講座、その他キャリア支援プログラムの詳細については、進路支援課までお問い合わせください。

学生生活における経済的な不安を少しでも解消し、安心して勉学に励むことができるように奨学金制度があります。募集については、随時manabaでお知らせします。出願の機会を逃さないようにして下さい。なお、家計が急変した場合には、緊急・応急での採用も随時可能ですので、学生課に相談して下さい。

■日本学生支援機構奨学金（貸与型）

経済的理由により修学に困難がある優れた学生に対し学資として貸与されるもので、貸与が終了した後、必ず返還しなくてはなりません。家庭の経済状況等に基づき、奨学金の貸与を受ける必要性、適正な金額、返還時の負担のことなどを十分考慮のうえ申込みをして下さい。定期募集は、年1回4月の募集のみです。奨学生に採用されると、卒業するまで貸与を受けることができます（留年中は停止）。

【奨学金の貸与月額】

奨学金の種類	貸与月額	
第一種奨学金 (無利子貸与)	自宅月額	20,000円、30,000円、 <u>40,000円</u> 、54,000円（何れかを選択）
	自宅外月額	20,000円、30,000円、 <u>40,000円</u> 、 <u>50,000円</u> 、64,000円（何れかを選択）
第二種奨学金 (有利子貸与)	20,000円～120,000円の中から希望月額を選択(10,000円単位) さらに最高月額（120,000円）に月額20,000円の増額希望可能	
入学時特別増額貸与 奨学金（有利子）	10万円、20万円、30万円、40万円、50万円の中から選択（大学1学年において入学年月を始期として奨学金（第一種・第二種）の貸与を受ける者が対象）	

- 注）1. 下線付きの月額は、2018年度入学者から新たに選択できる月額です。2017年度以前の入学者は、下線付きの月額を選択できません。
2. 自宅外通学の学生は、「自宅月額」「自宅外月額」の中から月額を選択することができます。
3. 給付型奨学金と併用する場合、区分によっては第一種奨学金の貸与月額が減額になります。

【奨学金の申込基準】

奨学金の種類	募集月	学力基準	年収・所得の上限額の目安					
			給与所得世帯			給与所得以外の世帯		
第一種奨学金 (無利子貸与)	4月	高校 評定平均値 3.5以上	通学形態	上限額	第一種・第二種 併用貸与上限額	通学形態	上限額	第一種・第二種 併用貸与上限額
			自宅	805万円	755万円	自宅	397万円	354万円
			自宅外	852万円	809万円	自宅外	444万円	401万円
第二種奨学金 (有利子貸与)	4月	学習意欲があり 学業を確実に 修了できる 見込みがある	通学形態	上限額	第一種・第二種 併用貸与上限額	通学形態	上限額	第一種・第二種 併用貸与上限額
			自宅	1,148万円	755万円	自宅	740万円	354万円
			自宅外	1,195万円	809万円	自宅外	787万円	401万円

- 注）1. 上表においては、本人、父、母（無職、無収入）、公立高校生の弟妹1人の4人世帯の年収・所得金額の目安です。世帯員の人数、家庭事情等により異なります。
2. 給与所得者（年金受給者を含む）の場合は、源泉徴収票の支払金額（税込）です。
3. 給与所得者以外の場合は、確定申告書の所得金額です。
4. 奨学金の種類や貸与月額については、希望どおりとならない場合があります。

■高等教育の修学支援新制度（給付型奨学金・授業料等減免）

2020年4月より高等教育の新修学支援制度が始まりました。この制度には、①日本学生支援機構による給付型奨学金の支給、②授業料等の減免の2つの支援があります。①の給付型奨学生として採用された方は、②の授業料等減免の対象者となります。4月と9月（授業料等減免の申請は10月）の年2回募集を行います。

【支援対象になる学生】

住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生（既に大学等に在学している学生も対象）

【支援を受けられる年収の目安と支給月額及び授業料減免額】

支援対象者	年収目安	給与所得以外の世帯	支給月額		授業料減免額 (年額のうち、以下の金額を減免)
	給与所得世帯		自宅通学	自宅外通学	
住民税非課税世帯の学生 (第1区分)	～約295万円	～約186万円	38,300円 (42,500円)	75,800円	900,000円
住民税非課税世帯に準ずる 世帯の学生（第2区分）	～約395万円	～約267万円	25,600円 (28,400円)	50,600円	900,000円
住民税非課税世帯に準ずる 世帯の学生（第3区分）	～約461万円	～約338万円	12,800円 (14,200円)	25,300円	900,000円

- 注）1. 上表においては、本人、父、母（無職、無収入）、公立高校生の弟妹1人の4人世帯の年収・所得金額の目安です。世帯員の人数、家庭事情等により異なります。
2. 生活保護（扶助の種類を問いません。）を受けている生計維持者と同居している人及び児童養護施設等から通学する人は上表のカッコ内の金額となります。
3. 収入基準についてはJASSOホームページに掲載している「進学資金シミュレーター」（右記のQR）でより具体的に確認できます。
4. 2023年度入学者で新修学支援制度対象者については、上記授業料減免に加え、入学金400,000円の減免を受けることが可能です。（納付済み入学金を還付します）ただし、10月採用者は除きます。
5. 授業料の減免については、2期に分けて減免します。（前期450,000円、後期450,000円）



【学業等にかかる基準】

新入生	2年次生以上
①高等学校等における評定平均値が3.5以上または、入学者選抜試験の成績が入学者の上位1/2の範囲 ②高等学校卒業程度認定試験の合格者 ③将来社会で自立し、活躍する目標をもって学修計画書により確認できる	①GPA（平均成績）等が学部等における上位1/2の範囲 ②修得した単位が標準単位数以上であり、将来社会で自立し、活躍する目標をもって学修計画書により確認できる

【その他要件】

- ・日本国籍、法定特別永住者、永住者等又は永住の意思が認められる定住者であること。
- ・高等学校等を卒業してから2年の間までに大学等に入学を認められ、進学した者であって、過去において本制度の支援措置を受けたことがないこと。
- ・保有する資産が一定の水準を超えていないこと（申告による）。

【適格認定】

支給の期間は原則卒業までですが、毎年1回家計基準と学業基準を満たしているか判定を行います（学業基準については上記基準と一部異なる）。それにより支援区分の見直しや、奨学金が廃止になる可能性があります。

その他、不明な点がありましたら、日本学生支援機構ホームページ(<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/kyufu/index.html>)をご確認いただくか、学生課窓口までご相談ください。

■京都薬科大学奨学金

本学独自の奨学金制度として、給付型・貸与型奨学金が設けられています。給付型奨学金は返還の必要がない奨学金で、貸与型奨学金は、卒業後返還となる奨学金です。公募となる奨学金は申請が必要である奨学金のため、申請を希望される方は、必ず指定の期間内において申請をして下さい。

奨学金の詳細は募集時期になりましたら、manaba上の各年次コースに掲示を行います。

種別		金額	募集人数	募集方法	対象等
給付型	新入生特待生	半期授業料(90万円)	約10名	大学選考 合格通知書に特待生通知書を同封	【2019年度入学者から適用】 新入生：入試成績上位者 《採用人数》一般入試A方式：4名 一般入試B方式：5名 一般入試C方式：1名
	成績優秀者	5～20万円 (特待生は90万円)	各学年 約15名	大学選考 (4月)	【2019年度入学者から適用】 2年次生～6年次生 成績優秀者上位15名 新入生特待生制度を利用して入学した学生が、上位10名以内であれば90万円給付
	研究・課外活動優秀者	5～20万円	約10名	公募 (2月～4月)	2年次生～6年次生 研究・課外活動において、顕著な実績又は成果を挙げた者
	遠隔地出身学生 (新入生予約制度)	60万円(月額5万円)	約12名	事前公募 (12月) 追加募集がある場合、4月に 別途manaba等により案内	【2021年度入学者から適用】 ・通学に合理的と認められる経路及び方法を利用し、片道120分以上を要する所在地に自宅(保証人の在在地等)があり、下宿生活をしている学生(保証人の所得基準有) ・入試前に公募、予約採用を決定する ・採用者が未入学等により、定員に余剰が出た場合、追加募集を行う ・6年間受給可能(継続審査あり)
貸与型 (無利子)		年額授業料の1/2以内	約10名	公募 (10月)	授業料の支払が困難な者 在学中に1回 10月募集、11月下旬貸与

■授業料減免制度について

本学では、学内奨学金制度に加え、大学等における修学の支援に関する法律に基づく授業料減免制度及び、別途本学独自の授業料減免制度を設けています。

それぞれ、前期申請については4月、後期申請については10月に受付を行いますので、希望される方は、学生課に所定の申請書を提出してください。それぞれ申請時期になりましたら、manaba上に申請要領及び申請書を掲載します。

種別		減免額	募集人数	募集方法	対象等
授業料減免	授業料減免制度 (学部)	90万円 (半期授業料)	約20名	公募 (4月・10月)	経済的な理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業成績が優秀な学生 (年収600万円以下で、国の修学支援新制度対象外の学生)
	法令等に係る授業料等減免制度	40万円(入学金) 90万円(半期授業料)	対象者全員	公募 (4月・10月)	国の修学支援新制度対象学生 対象: 日本学生支援機構 給付型奨学生採用者(注) ・入学金の減免は、その年の学部新入生であり、4月1日付で認定を受けた方のみが対象となります。(納付済み入学金を還付します)。 ・授業料の減免については、2期に分けて減免します。(前期450,000円、後期450,000円)

■その他の奨学金

地方自治体や企業、その他団体の奨学金制度があります。募集中の奨学金制度は、manaba上に掲載しており、随時更新しています。その他奨学金の募集に関して、相談・申請を希望される方は学生課までご相談下さい。

【学生課を通じて募集している奨学金（一部のみ掲載）】2022年度実績

奨学団体名	種別	月額	出願資格
河内奨学金	給付	40,000円	薬学部 一年次生
佐藤奨学会	給付	25,000円	大学・大学院に在籍し、学業・人物が優秀であり、学資支弁が困難と認められる学生
あしなが育英会	貸与	40,000円	保護者が病気・災害等で死亡またはそれらが原因で後遺障害を負っている学生
交通遺児育英会	貸与	40,000円～	大学・大学院に在籍しており、保護者等が交通事故により死亡または高度後遺障害を負った者
各病院・薬局独自の奨学金制度	貸与等		各薬局・病院が独自に募集している奨学金制度や返還助成制度等

その他多くの奨学金をご紹介します。



2023年度学費等の納入について

会計課

2023年度学費等の納付書を保証人様宛てに送付いたします。

下記の納入期限までに、学費等を納入してください。

	前期	後期
納付書発送	4月上旬	9月中旬
納入期限	4月30日	10月31日

■ 経済的な事情により、期日までに納入ができない場合は、学生相談員(3年次後期以降は分野主任)に相談し、事務局学生課にて速やかに学費延納手続を行ってください。

■ 所定の期限までに納入がない場合は、講義・実習等の受講及び各種証明書の発行が停止され、定期試験等の受験資格を失うほか、進級・卒業にも影響し、場合によっては退学処分となりますので、十分注意してください。

<納入手続のお願い>

金融機関窓口で納入される場合は、本学から発送しました納付書をご利用ください。

本学指定の金融機関をご利用いただきますと、振込手数料が無料となります。

なお、インターネットバンキングやATMをご利用される場合は、納入確認が困難となる事例が発生しておりますので、以下の点に十分ご注意くださいようお願いいたします。

振込人名義を入力する際は、本学納付書の太枠内にある振込依頼人コード（数字）と振込依頼人名（数字＋学生氏名）を正しく入力してください。

※保証人その他のご家族等、学生ご本人以外の名義で振り込まれた場合、本学にて納入確認ができない可能性があります。



2023年度オープンキャンパス開催のお知らせ

入試課

2023年度のオープンキャンパスは下記の日程で行う予定にしています。

開催につきましては、詳細が決まり次第、本学公式サイトでお知らせいたしますのでご確認ください。

■2023年度オープンキャンパス

〈開催日〉

2023年6月4日（日）

2023年8月5日（土）・6日（日）

2023年10月15日（日）



受験生サイト

お問い合わせ

入試課

T E L : 075-595-4678

F A X : 075-583-2232

E-mail : kpu-koho@mb.kyoto-phu.ac.jp

毎年、京都橘大学と合同で実施している多職種連携教育（Interprofessional Education; IPE）研修会を12月15日に開催しました。2016年度から開催して今年度で7回目を迎えます。いつもはバラバラに専門分野を学んでいる薬学、看護学、理学療法学、作業療法学の4領域の学生が一堂に会して多職種連携について理解を深める研修会です。今年度もCOVID-19の流行による集団感染防止の観点から、アルコールによる手指消毒やマスクの着用、講義室の換気など、十分な感染防止対策を行い、無事にIPE研修会を開催することができました。

IPEの目的は「①医療チームの一員として自分の専門職の役割を理解する」、「②他の専門職の視点、考え方、役割を学ぶ」ことであり、異なった医療人教育を受けている薬学・看護学・理学療法学・作業療法学の学生たちが共に話し合い（SGD）を通じて多職種連携の在り方や考え方などを知り、各職種にはどのような強みや弱みがあって、各職種が協働してどのような形でチーム医療に貢献できるのかを理解することが大きな目的です。

本年度の研修会に参加した学生は26名（京都薬科大学：5年次生11名、京都橘大学看護学部：4年次生11名、京都橘大学健康科学部理学療学科：4年次生4名）でした。

症例シナリオは「畑で脳梗塞を発症して右の手足がマヒし、軽度の認知症を患いながら妻と暮らす60歳代男性の在宅ケア」です。I部ではまず同じ学科の学生同士でSGDを行い、このシナリオについて「各専門職として何ができるのか？」についてのアウトカム（プロダクト）を作成し、それを発表してもらいました。



I部では学科ごとにSGDを実施

その後、II部では各学科の学生が混ざった学科混成グループにして「各専門職としてだけではなく、

在宅でのチーム医療を実施するための共通目標を立てること」をアウトカムにしてSGDを行い、プロダクトを作成し、発表してもらいました。



議論を交わす参加者たち

実際に研修会を行ってみると、I部では同じ教育を受けているため議論がスムーズに進みましたが、II部では各専門の医療人教育を受けてきているため、それぞれの立場からの考え方の違いが明確になり、それぞれの意見をうまく統合させた共通のアウトカムを導き出すのに苦労している様子でした。

しかし、研修終了後の薬学生からは「同じシナリオであるにも関わらず、着眼点が異なり、普段では思いつかない視点があることに気づかされた」や「他分野の専門用語を理解しながらの議論は難しく、患者の生きがいにくみ取る重要性を共有できたのが成果でした」という意見が上がっていました。

アンケート調査で「本IPE研修を後輩に勧めますか？」という質問に対して、学生26名全員が「はい」と回答しており、「卒業後もこのようなIPE研修会があれば参加したいですか？」という質問に対しても全員が「はい」と回答していました。

これからの地域医療は“病院完結型医療”から“地域連携型医療”にシフトします。これに対応するためには、治療（cure）だけでは不十分であり、発症後の介護・福祉も含めたケア（care）も重要になります。そのため、自らの専門的能力だけでなく、他職種の役割を理解した上で、多様な専門職と協働し、患者や利用者のニーズに応じていく実践的な能力を身に付け、医療現場で働き始めた当初から円滑なチーム医療を実践できるように学生時代から多職種連携についてしっかりと理解しておくことが重要であり、非常に大切な研修会であると考えています。



研修会参加者の皆さん

■今年度より、オンラインにて受講可能な講座を増やしました。申込受付中です！

◇「2023年度卒後教育講座～DXで変貌する医療に対応した一歩先の薬剤師を目指して～」

＊日程：2023年5月21日(日)、6月18日(日)、7月9日(日)、8月27日(日)

5月・7月 10:00～16:00 / 6月・8月 12:30～16:00

＊場所：京都薬科大学躬行館3階 T31講義室 及び オンライン配信

＊定員：対面200名 ＊参加費：12,500円（受講料12,000円、事務手数料500円）

＊申込受付期間：2023年5月8日(月)まで 認定単位：G24 計10単位（1単位／演題）

開催日	10:00～11:30	12:30～14:00	14:15～15:45
2023年 5月21日 (日)	脳卒中診療における薬物療法 京都大学大学院医学研究科 臨床神経学(脳神経内科) 講師 眞木崇州先生	オンライン服薬指導と ファーマシューティカルコミュニケーション 帝京平成大学 薬学部 教授 井手口直子先生	心不全患者の包括的管理 京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器内科学 講師 白石裕一先生
2023年 6月18日 (日)		臨床推論の考え方、活かし方 山梨大学医学部附属病院 薬剤部 中込哲先生	～あなたが職場で倒れたら～ 確実な急変対応を共有しよう！ 京都府立医科大学大学院医学研究科 救急・災害医療システム学 講師 山畑佳篤先生
2023年 7月9日 (日)	脳死患者の臓器提供を 見据えた全身管理 京都第二赤十字病院 救命救急センター 救急科 副部長 成宮博理先生	2型糖尿病における薬物療法 京都府立医科大学大学院医学研究科 内分泌・代謝内科学 教授 福井道明先生	ビッグデータを活用した医療薬学研究 岡山大学病院 薬剤部 薬剤部長 教授 座間味義人先生
2023年 8月27日 (日)		医療用添付文書の活用 ～IFやRMP、審査報告書でしか 分からないことは～ 京都大学医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長 深津祥央先生	医療DXと薬剤師の業務 公益社団法人日本薬剤師会 副会長 渡邊大記先生

◇「2023年度eラーニング講座」

今年度の卒後教育講座および漢方講座を新規コンテンツとし、前年度コンテンツも再配信します。対面での研修会に代わる受講や理解度に合わせた学習にご活用ください。（全48コンテンツ配信予定）

＊配信期間：2023年6月1日(木)～2024年2月29日(木)

＊参加費：15,500円（受講料15,000円、事務手数料500円） ＊認定単位：G24 1単位／コンテンツ

＊申込受付期間：2023年4月1日(土)～2024年2月22日(木)

●お申込は、生涯教育センター公式Webサイトにてお願いいたします。 <https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>

●本学の学生・職員は、講座の無料受講が可能です。受講希望者は、まずは実務・生涯教育課まで、メールまたは下記のお問い合わせフォームにてご連絡ください。皆様のご参加をお待ちしております。

■問合せ先

京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課
(生涯教育センター事務取扱担当)

＊E-mail：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

＊TEL：075-595-4677（平日10:00～16:00）

＊FAX：075-595-4792



生涯教育センター
問い合わせフォーム



卒後教育講座
申し込みページ



eラーニング講座
申し込みページ

ゆき りゅうざぶろう
生化学分野 助教 幸 龍三郎

『がん遺伝子の発見 がん解明の同時代史』
黒木登志夫 著

中央公論新社（1996年）

がんは、今や治る病気の一つになりつつあると考えられています。その裏には、がん発症のメカニズムを解明するために奮闘した多くの研究者の努力があります。本書は、がん研究の第一線を直走った黒木登志夫先生が、がんの原因が遺伝子の異常であることが明らかとなるまでの軌跡を紹介する本となっています。学部生だった私は、それぞれの研究者のアイデアにワクワクしながら読み進めていったのを覚えています。新たなことを発見する研究者の熱意や研究姿勢は、今も昔も変わりません。多少難しい点もありますが、生物学の基礎知識があれば、ある程度読み進めることができると思いますので、ファーマシストサ



イエンティストを目指す皆さんにとって、研究が身近に感じられるような一冊になると幸いです。

本書の解説は1910年代のアメリカに遡ります。三十歳を過ぎたばかりのペイトン・ラウスは、ニワトリのがん組織をすり潰した液を素焼きの瀬戸物に通しても、がんを発症させる能力が低下しないことを見つけ、ある種のがんの発症にウイルスが関わることを発見しました。がん解明の糸口となるこの功績は大きく、ノーベル賞受賞に繋がりました。その後、がんウイルスによるがん化には、RNAをDNAへ変換する逆転写酵素が必要なことが明らかとなり、セントラルドグマを覆すこの概念は、大きな話題を呼びました。そして、ラウス肉腫ウイルスから最初のがん遺伝子srcが同定されました。さらに、がん抑制遺伝子の異常もがん化に重要であることが明らかとなりました。本書を通して、このような黎明期のがん研究に触れることができます。

現在では、様々な分子標的薬が臨床応用されるまでに至っています。研究手法の革新とともに研究領域が拡大・深化していくことで、新たな創薬介入点が見つかります。薬学では、病気の発症原理を理解し創薬開発を行い、投薬される患者さんのQOL向上に努める、という一連のプロセスに携わることができます。皆さんも、研究室に配属された際には大いに楽しみながら研究に関わってみましょう。



■ 第2弾 進路支援課

お久しぶりです。KPUnews編集委員の学生です。
今回は大学の事務局のお仕事紹介第2弾として、進路支援課を紹介します。

進路支援課は愛学館1階、POPPY寄りの入口入ってすぐにあります。5人の事務職員の方で学生の面談をはじめ、就職活動情報提供、セミナー等の企画・運営をされています。学生面談ではキャリアコンサルタントという資格を武器に、学生一人一人の強みを活かせるようにアドバイスしていただけます。

1・2年次生では労働条件理解セミナーや進路デザインガイダンス、3年次生では「医療の担い手としてのこころ構えC」の授業を担当してくださっていますが、4年次生のキャリア面談からお世話になることが多くなってくると思います。

近年の就職活動の早期化に合わせて我々の支援プログラムを組んでくださっており、全ては学生のみなさんが希望する進路に就けるよう取り組んでおられました。

進路支援課の資料ブースにはこれまでの先輩方が残して下さった有益な情報がたくさん揃っています。



熱心に資料を見る学生編集委員

我々も実際にブースに行ってきましたが、就職試験内容や体験談を詳細に記録した資料があり、たくさんの刺激を受け、モチベーションが上がりました。資料ブースにはいつでも誰でも立ち寄ることができるので、低学年のうちから自分の将来と向き合う時間を作るためにぜひご活用ください！ また、manabaやTwitterで情報発信もされており、有益な情報を得られます。一度覗いてみてはどうでしょうか？



模擬面談に挑戦！



本学公式Twitter



2023年2月17日（金）、京都薬科大学創立130周年記念館において、「白衣授与式」が開催され、薬局・病院での実務実習を直前に控えた新5年次生約200人が参加しました。2月20日（月）から始まる第Ⅰ期実務実習に参加する学生約100人については、実習開始の1週間前までに実習先の居住所に移動（帰省）しなければならないことから、残念ながら式への参加は叶いませんでしたが、厳かな雰囲気の中、白衣授与式が執り行われました。

白衣授与式は、2016年度から継続して毎年この時期に新5年次生を対象に、将来薬剤師（医療従事者）となる責任と本学学生であることの自覚を再認識することを目的に開催しています。



学生の代表に白衣を贈る学長

当日は、学生の代表者が赤路学長から壇上で白衣を授与された後、参加者全員が校章と大学名の入った真新しい白衣

を着用。学長の式辞として、「実務実習を通じて、皆さんがどのように成長して大学に戻ってくるかを楽しみにしています」との言葉が贈られました。



真新しい白衣に袖を通し、心構え新たに

また、村木臨床薬学教育研究センター長から実務実習に向けた心構えについて、教育後援会会長、京薬会会長からそれぞれ激励の言葉が述べられ、最後に学生の代表から「将来、医療や社会に貢献できる薬剤師になるために、多くのことを吸収して成長できるよう全力で取り組む」との誓いの言葉が述べられ、閉式となりました。

真新しい白衣に袖を通した学生らはみな一様に凛々しい表情を浮かべて、心構えを新たにしている様子が見られました。これから薬局、病院それぞれ11週の実務実習を通じて、より多くの学びを得ることが期待されます。

2022年度社会人力養成講座を実施しました

2022年9月から12月にかけて3年次生を対象に「社会人力養成講座」を実施しました。

本講座は協力企業から提供されたテーマに対して学生がグループで企画を考えて提案することを通して社会で必要とされる力を身につけることを目的としています。4年目を迎えた今年度の参加者数は31名でした。今回のテーマは昨年度と同様に「医薬品会社として『食×薬』を活かした新たな製品を考える」という、実践的なものでした。

全10回の講義を通して学生は、テーマの解釈、成果物のイメージ、市場分析、企画立案、あるいはプレゼンテーション資料の作り方について学びました。また、これら講義の随所で社会に出て求められる考え方や取り組み姿勢についても講師から説明がありました。

中間プレゼンテーションでは講師から改善点について指摘を受けたグループもありましたが、そこから残り2週間で大きく飛躍を遂げ、最終プレゼンテーショ

ンでは協力企業の担当者からどのグループも非常にレベルが高かったとの言葉がありました。また当日は他のグループの発表に対する質問が積極的に行われ、学生同士の質問によって自分たちでは思いつかなかったアイデアに気付けた、といった声もありました。



積極的な質疑応答

このほか、参加した学生からは「主体的に行動しないと得られない学びが沢山あると気づいた」、「グループワークの講座であったため、あまり知ることが無かった自分の長所・短所が自ずと浮かび上がり、将来に向けて考えるきっかけになった」などの感想もありました。コロナ禍で入学した現3年次生にとって本講座が複数の人と対面で協力し合い何か一つの目標に向かって取り組み成長を実感できる一つの機会となったのではないかと考えています。



最終プレゼンの様子

講師：松田 剛典（一般社団法人キャリアラボ）
協力企業：MeijiSeikaファルマ株式会社

1 駅伝大会に協賛

3年ぶりに開催された駅伝大会（2022年11月26日）に京薬会も協賛し、恒例となった京薬会賞、駅伝後の「ぜんざい」も提供しました。



2 クラブ・団体活動する学生会員にエール送る

コロナ禍で制約のある中、学業とクラブ活動等を両立している大学公認の41クラブ・サークル・団体へ京薬会からメッセージと激励金をお贈りしました。

（2022年12月2日）



メッセージを贈る西野会長

3 歴史資料室だより

〈京都薬学専門学校製作の煙草入れの寄贈〉

本学理事長土屋勝氏から京都薬学専門学校製作の煙草入れを寄贈いただきました。資料室では所蔵されていない貴重なものです。ありがとうございます。表側には「1947」「K.P.C.」とケシの花をあしらったマークが、裏側表には「土屋詞良」と刻まれた金属製のものです。京都薬学専門学校を1932（昭和7）年に卒業されたお父さま土屋四郎（詞郎（しろう））氏の遺品とのことです。なお、四郎氏はテニス部に所属されていました。



戦後まもない1947（昭和22）年になぜこうしたものが作製されたのか、今のところ不明です。この年3月に教育基本法・学校教育法が制定され専門学校令が廃止されることになります。他の専門学校と同様に、京都薬学専門学校も学校廃止か大学昇格かの岐路に立たされます。昇格資金とするための寄付金募集と関係があったのかもしれません。ご存じの方がおられましたらお知らせください。

〈京都薬科大学写真葉書セット「学園の今昔」の寄贈〉

岡山県にお住まいの会員（1965年卒）土岐隆信氏から本学製作の写真葉書セット「学園の今昔」および自治会執行部役員名簿葉書をご寄贈いただきました。ありがとうございます。いずれも資料室では所蔵されていない貴重な資料です。前者の製作時期は明らかではありませんが、創立80周年（1964年）を記念したものかもしれませ

ん。秋築（あきづき）町時代の校舎と当時の山科の校舎を並置した葉書もあります。後者の名簿葉書も同時期のものと思われ、土岐氏は会計部長としてお名前が記されています。

土岐氏は薬剤師としての勤務のほか、『備中売薬-岡山の置き薬-』（共著、日本文教出版株式会社「岡山文庫」269、2011年）を刊行し、近年では林源十郎商店物語編集委員会編

『林源十郎商店物語』（吉備人出版、2020年）の編集・執筆に携わるなど薬史学の研究者としても活躍されています。



〈R. レーマン校定『和独対訳字林』（1877年刊）出版人についての新事実が判明〉

本学の起点となった京都私立独逸学校は、京都府御雇のプロシア人（ドイツ人）ルドルフ・レーマンの教え子である中川重麗（四明）や雨森（あめのもり）菊太郎たちによって明治18（1884）年4月に創設されました。それに先だつ明治10（1877）年に、レーマンが校定（監修）した最初の和独辞典『和独対訳字林』が刊行され、本学図書館にもその1冊が所蔵されています（写真は、所蔵辞書の中扉）。

今回、この辞典の出版人である日比谷健次郎と加藤翠溪（すいけい）という2人の人物がどのような人たちであったのかが明らかとなりました。



きっかけは、この辞書について日比谷健次郎のご曾孫日比谷二郎氏が本学へ問い合わせたことにより判明しました。日比谷家の歴史は戦国時代にさかのぼることができるようです。武蔵国足立郡（現在の東京都足立区）に居住する幕府領の郷士（在郷の武士）の家柄で、健次郎（1836年～1886年）は、幕末に北辰一刀流の免許皆伝を受け、邸内に道場を有する剣術家でした。と同時に漢籍にも造形が深く、書画を愛好するなど教養人でもあったようです。他方、加藤翠溪（1815年～1895年）は健次郎の妻よね（1851年～1913年）の父親にあたります。つまり、義理の父子という関係です。

日比谷健次郎についての詳細は、「日比谷健次郎 幕末・足立の郷士」という公式サイトがありますので、そちらもご覧下さい。今回貴重な情報を提供していただいた日比谷二郎氏にお礼を申し上げます。なお、日比谷二郎氏は、2020年より足立区郷土資料館と協力して「足立における郷士の歴史と文化に関するワークショップ」を主宰されています。同ワークショップの今後の成果に期待したいと思います。レーマン校定の辞書の出版の経緯など詳しいことが分かり次第、本欄においても追々紹介していきたいと思ひます。

（愛学躬行歴史資料室委員長 鈴木 栄樹）

いつまでもチャレンジを！

いまい のぶよし
今井 延佳



2010年 大学院修士課程修了
(臨床薬理学分野)

塩野義製薬株式会社
ヘルスケア戦略本部
CSR推進部 こどもの未来支援室

私は2010年本学の修士課程修了後、塩野義製薬株式会社の臨床開発部で医薬品の開発に関わる業務に従事しました。開発の仕事を希望した理由としては、研究室で行われていた抄読会の影響が大きいのように思います。抄読会では、循環器領域の疾病に関する臨床試験の論文を多く扱いましたが、新薬のみならず、既存の医薬品も臨床試験で評価されることでガイドラインが改訂されるなど、エビデンスの価値や力に魅力を感じたからです。

5年目を迎えた頃、今後上市する新薬のマーケティング業務に従事することになりました。皆さまは何か症状が出たとき、病院に行けばいいのか悩んだことはありませんか？良い医薬品を新薬として世に送り出しても、患者さまが病院を受診しなければ役には立ちません。マーケティングについて一から勉強が必要でしたが、開発業務と同じで「病気で苦しむ方々の目線で考える」ことを大事にし、医薬品

が正しく、適切に、必要な人に届く仕組みを考えることにやりがいを感じました。

現在はCSR推進部に異動し、医療分野だけでなく、ご家庭や教育、福祉の分野における社会課題の解決に向けて取り組んでいます。患者さまとその周りにおられる様々な方々へのサポートを、行政やIT関連企業、アカデミアなど多様なパートナーと一緒に行い、医療用医薬品にとどまらないヘルスケアサービスの提供を目指しております。具体的には、病気を未然に防ぐ、病気を早く見つける、ことを目的とした仕組やサービスを創っています。昨年、ようやく一つのサービスを塩野義製薬の子会社として世の中に提供することができました。ここに至る過程では、企業経営に関するアカウンティングやファイナンス、人・組織のマネジメント等の知識も必要で苦労しましたが、医薬品以外で病気にアプローチすることができ大きな喜びでもありました。

私の今の仕事は、一見して大学で学んだこととはかけ離れているように思えますが、大学生活で学んだ病気や医薬品に関する知識や、研究室の仲間と一緒に協創してきたことが土台となっていると感じています。

大学生活を通して得た知識や経験は、どのような仕事においてもきっと皆さまの強みになることと思います。そして、社会に出てからも皆さまの興味や関心を刺激するたくさんのお会いがあると思いますので、是非恐れずチャレンジしてください。そのチャレンジは皆さまを益々成長させることは間違いなしです！

Library News

図書館

図書館には「紙」の資料しかない、と思っていないですか？海外のものほど多くはないですが、実は図書館にはインターネットを使って読める日本語の「電子」資料がたくさんあります。代表的なものとしては、図書館ホームページで所蔵資料を検索した時に“電子ブック”と表示される図書はそのまま画面上で読むことができます。また、Maruzen eBook Libraryの電子ブックは、リファラ認証に対応したことで、マイライブラリ経由で学外からでもアクセスできるようになり、とても便利になりました。電子ブック以外にも、データベース『日経BP記事検索サービス』では、日経BP社が発行する「日経ドラッグインフォメーション」「日経メディカル」「日経エンタテインメント！」といった雑誌のバックナンバー記事を閲覧できたり、形態はすこし異なりますが、国内最大級の総合診療データベース『今日の診療Web』では「治療薬マニュアル」や「今日の診療指針」といった医学書院のベストセラーが収載され、必要な項目へ容易にアクセスが可能となっています。電子資料には様々な種類がありますので、気になったコンテンツがあれば、ぜひ図書館ホームページよりアクセスしてみてください。

◇本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>



KPU NEWSでは、学生・職員の趣味や活動などを新コーナー「十人十色」と題して幅広く紹介しています。
学生・職員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

京都から福岡までチャリで行く

臨床薬学教育研究センター 3年次生

かわの さくらこ
河野 桜子

私は大学生活で新たに、ロードバイクを趣味として始めました。この3年間、関西圏にとどまらず、北海道や山陽地方、九州さらにはタイで自転車を漕ぎ、色々な旅を経験しました。その中で今回は最初の旅である、京都から福岡までロードバイクで走った旅を紹介します。

私は大学1年次生の秋、アウトドア活動を主とする京都大学のインカレサークルに入会しました。そのサークル活動の一環として、ロードバイクで旅をするというものがあり、今までロードバイクとは無縁だった私は周りに流されるままに購入しました。しかし、それに反し購入から納車までの期間、どこかに行きたい気持ちが強くなり、勢いのまま納車から一週間で、「自転車京都から福岡まで漕いでみよう！」と旅をスタートさせました。総距離は約600km、日数は6日間、ロードバイク初心者の私の一人旅。しかも真冬の2月。今振り返ると元気すぎたな…と思います。

今回の旅では1日大体100km漕ぐのですが、ロードバイクを漕がない人にとってはどれだけの距離かわかりづらいと思います。初心者だった私が漕げるスピードは1時間に平均20km弱、単純計算では約6時間で漕げる距離ですが、休憩を何度も挟むので、毎日夜明け前の5時出発で17時頃まで漕いでいました。漕ぎ始めは寒くて震えていたこと、朝日で明るくなってくるとやる気が満ち溢れてきたことを毎年冬になると思い出します。

福岡へと向かう中で、京都から兵庫まではほとんど坂がなく、旅も序盤なので、純粋にロードバイクを楽しんでいました。初日の宿は明石海峡大橋が見える海に面したゲストハウスに宿泊し、1000円ほどの安い宿でしたが、波の音を聞いて眠り、波の音で起きる朝は二度と忘れられない経験となりました。

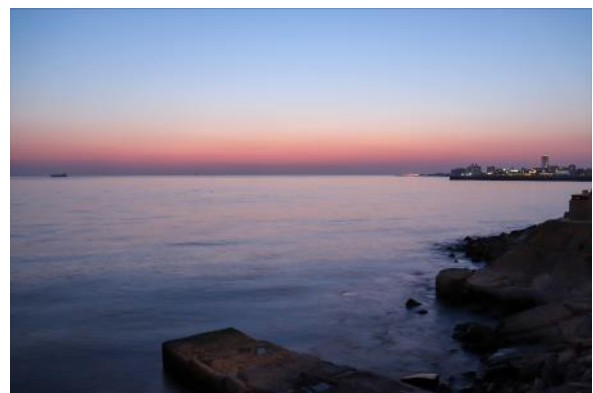


私の愛車（ロードバイク）

しかし岡山から広島は、山を越えたと思えば、また山、またまた山と上り坂が連続していました。普通の自転車よりは速いですが、ロードバイクもしんどい

です。私の自転車を見た人からは速そう、軽そうとよく言われますが、車ではなく人力なのと、さらには衣類や食料など7,8キロの荷物を後輪に付けていたので、なかなか進みませんでした。しかし、ある上り坂を越えて、息を落ち着かせながら坂を下っていると西日で光る瀬戸内海が一面に広がっていました。坂を越えた達成感と雄大な自然を感じる景色に思わず叫びながら、全速力で下りました。

旅を始めて5日目にして走行距離560km、ついに九州上陸を果たしましたが、ゴールまであと50kmの最終日は大雨でした。実はこの旅は完走することができませんでした。大雨の中、車通りの多い福岡を走ることは危ないと判断し、諦めました。少しやりきれない気持ちでしたが、題名にもあるように「京都から福岡までチャリで行く」ことは達成できたのと、自然には逆らえないので、この旅は終結しました。



西日で光る一面の瀬戸内海

今回、私が経験した自転車旅の一部を紹介しましたが、自転車旅の魅力は伝わりましたでしょうか。自分の力で前に進むことによって感じる達成感、車や電車の時は見過ごしてしまうような景色に出会った瞬間は今でも鮮明に覚えています。快晴の中、海沿いを走る気持ちよさもあれば、雨や風で走ることを断念せざるを得ないこともあります。すべて想像通りに進むわけではなく、予期せぬトラブルに見舞われることは思い出をより濃くしてくれるいいスパイスとなりました。また、コンビニで休憩をしていると女性の方から差し入れを頂き、応援してもらったこと、信号待ちで偶然会ったラジオ局の人からインタビューされ、人生初のラジオ出演を果たしたことなど一人で毎日走っている分、いつもの倍以上に人の温かみを感じることができました。

1年次生のときに勢いのまま、一生に残る旅を経験したことで、これまでの3年間語りつくせないほどの多くの経験をしました。コロナ禍で遠出を避けた生活をこの数年意識してきたとは思いますが、都会の喧騒を離れ、自然に触れることで、自分の世界を広げてみませんか。

■「大学生の間に身につけておく」といふ力」のこと

新年度が始まりました。新入生みなさん、ご入学おめでとうございます。これからの大学生活に向けて、ワクワク感があれば、緊張感や不安など色々な感情があることと思います。大学生活が皆さんにとって実りある充実したものとなるよう祈っております。

在学生みなさんは、新年度を迎え今どのようなお気持ちでしょうか？それぞれの置かれている状況の中で、無理なく、自分なりの歩みを進めていけるといいですね。

さて、大学生時期は、発達心理学上は完全に大人とは言えないものの、もう子供ではないという青年期後期にあたる時期とされています。自立に向けた親子関係の捉えなおしをしたり、様々な人間関係の広がりや深まりを通して自分とはどういう人間なのかということについて、理解を重ねていったりするととても大切な時期です。コロナ禍の生活で対人関係のあり方の変化があったかもしれませんが、学生みなさんには、ぜひ、多くの人の様々な考えに触れながら自分自身への理解を深めていただきたいと思います。

また、そういったところの中の作業もとても大切なことですが、学生相談室カウンセラーとして最近特に感じていることとしては、大学生のうちに、生活力や心身ともに健康に生きていくための調整力を身につけておくことの大切さです。

例えば、お金、時間、スケジュール等をしっかりと管理できる力や、心身の健康を維持するために生活リズム

を保ったり、適切に睡眠や食事を摂ることができたり、自分の不調に早めに気づいてうまく対処できたりする力等のことを指しています。ただし、これは、自分一人だけの力で全部できるようにならないといけないという意味ではありません。苦手なこと、できないことについてはサポートをお願いしたり、SOSを出すことができたりといった、「周囲の人や社会資源を頼る力」というのも生活力の一つです。

本学には学生相談室という場所があります。女性カウンセラー2名が常駐しています。知らない人に自分のことについて話をする、相談してみようというのはイメージがつかなかったり、踏み出しにくかったり、不安がつきものだったりすると思います。でも、必要時にはぜひアクセスしてみてもらいたいと思っています。

学生相談室は、秘密が守られる場所です。そして、カウンセラーは、みなさんとお話されることを批判したり、良いか悪いか等とジャッジしたりすることは一切ありません。アドバイスをさせてもらうことはありますが、基本的には、お話をじっくりと聴かせていただき、相談者の方が自身の考えを深めながら、どう行動し、何を選択するのかについて決めていくことができるよう、カウンセラーが、サポーターとして伴走するようなイメージです。

みなさんには、大学生活を送る上で、頼れる人、頼れる場所をたくさん持っておいてほしいと思います。学生相談室がその一つになることを願っております。

(臨床心理士 上野みな子)

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。相談は臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保証人や教職員の方からの相談も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館4階

相談を希望される方は下記申し込みフォームまたはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。なお、COVID-19感染拡大防止の観点から、対面相談のほかに、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

◇開室（受付）時間：月～金 8:45～17:15

◇学生相談室メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

◇電話：（075）595-4672（建部）／（075）595-4686（上野）



申し込みフォームQRコード

3年次生の吉永紗桜さんが京都市山科区役所の山科魅力発信動画に出演しました

Report



京都市山科区役所の京都山科ブランディング事業の一環である「山科魅力発信」の企画において、3年次生の吉永紗桜さんが取材協力をし、京都市山科区役所公式Webサイトで動画が配信されました。

京都市山科区役所公式Webサイト

<https://www.city.kyoto.lg.jp/yamasina/page/0000287444.html>

■ 薬品製造学分野の小島直人准教授が第20回有機化学協会関西支部賞を受賞しました

薬品製造学分野の小島直人准教授が第20回有機合成化学協会関西支部賞を受賞し、2022年11月21日（月）に大阪科学技術センターにて受賞講演を行いました。

受賞：薬品製造学分野 准教授 小島 直人

演題：パンレイシ科アセトゲニン類をモチーフとする新規抗がんリード化合物の創製研究



■ 病態生理学分野の藤堂暢久さんが第12回 4大学連携研究フォーラムにおいて、優秀賞を受賞しました

2022年11月29日に開催された「第12回 4大学連携研究フォーラム」において、病態生理学分野の藤堂暢久さんが優秀賞を受賞しました。

受賞者：病態生理学分野 博士課程2年次生 藤堂 暢久

演題：アーティチョーク抽出物はSERCA (Sarco/Endoplasmic Reticulum Ca^{2+} -ATPase) を阻害することでヒト気道線毛上皮細胞を活性化する

共同研究者：法山康太、田宮暢代、戸田侑紀、茂田昌樹、中村誠宏、細木誠之、高山浩一、芦原英司



■ 統合薬科学系の福田愛菜さんが第96回日本薬理学会年会において学生優秀発表賞を受賞しました

2022年11月30日（水）～12月3日（土）に開催された第96回日本薬理学会年会において、統合薬科学系の福田愛菜さんが学生優秀発表賞を受賞しました。

受賞：統合薬科学系 博士課程4年次生 福田 愛菜

演題：生薬由来低分子化合物の $\text{A}\beta$ 神経毒性に対する保護作用と $\text{A}\beta$ イメージングに向けた解析

演者：福田愛菜、中嶋聡一、尾田好美、西村周泰、花木葵、河嶋秀和、木村寛之、中村誠宏、松本崇宏、高田和幸



■ 浜田翔平助教が2022年度有機合成化学協会日産化学研究企画賞を受賞しました

薬化学分野の2023年2月15日（水）に薬化学分野の浜田翔平助教が2022年度有機合成化学協会日産化学研究企画賞を受賞しました。

受賞：薬化学分野 助教 浜田 翔平

研究企画：ピアリアルカルボン酸構造に基づく距離認識型触媒の創製とアミノ酸のサイト選択的C-H官能基化法の開発



■ 京薬大・京都橘大 医療系学部による合同多職種連携教育（IPE）の開催記事が、読売新聞、薬事日報に掲載されました

京薬大・京都橘大 医療系学部による合同多職種連携教育（IPE）の開催記事が読売新聞（2022年12月21日）、薬事日報（2022年12月23日）に掲載されました。

■ 赤路学長の取材記事がWebサイト「転職hub」に掲載されました

赤路学長の取材記事が、様々な業界の転職環境やキャリア形成に関する情報Webサイトである「転職hub」（2023年1月17日）に掲載されました。

■ 本学の履修証明プログラム「Lehmannプログラム」の取材記事がWebサイト「JobQ」に掲載されました

株式会社ライボが運営するキャリア・転職・就職に特化した匿名相談サービス「JobQ」のリカレント教育取材企画において、本学の履修証明プログラム「Lehmannプログラム」への取材記事（2023年2月9日）が掲載されました。

■ 新聞記事の一覧についてはこちら

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph>



京都薬科大学奨学寄附金芳名録

Report

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

* 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2022年12月～2023年2月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等（五十音順）＞

赤座 千幸	片岡 里美	高越 清昭	松下 佳代
阿久澤節子	掃部 巍	高橋 航平	松田 泰幸
浅野 元	川勝 邦夫	田中 兼義	松本 名美
東 富雄	川口たか子	谷口 睦子	南 貴大
池田 正義	河尻 毅	張 賢二	宮田 真帆
出野 奈穂子	北波 利雄	突合 皐月	向井 吉一
伊藤 徹弥	串田 ゆか	土屋美代子	村山猪一郎
稲垣 美幸	楠見 康夫	戸井 一郎	本岡美智子
井堀 多美子	楠本 和子	土岐 隆信	森田 強三
井堀 政芳	隈下 葵	鳥羽 幸一	森脇 浩樹
岩井 隆也	黒川 博三	長岡 諭	安松 幹夫
岩下 知生	小岩由紀子	中川 哲	矢野 治彌
岩田 智和	越川 喜敏	中西佐起子	山内 基誉
植田 宗宏	越野 裕貴	中村 純子	山内 宏利
植田 敦彦	後藤 博輝	中村 宏	山下 紘一
植田亜希子	児山 道代	夏見 生子	山田 敏雄
内田千恵子	志田 千鶴	七海 禮子	山本 智子
内原 信次	下中 睦子	七海 朗	吉井 知
鶴山 邦子	渋谷 禎彦	服部 恵子	和氣 節子
岡田 基文	杉崎 隆治	早田美都子	渡辺 温
岡本 憲治	杉本 幸枝	広海 玄勝	
奥林 活人	鈴木 哲朗	船田はるみ	
柿谷 均	田浦 稔康	古本 靖弘	

＜卒業50周年記念募金（昭和48年卒業生）＞

寄付金 85万円 昭和48年卒業(卒後50周年)生 有志 37名

＜保証人（五十音順）＞

上田 初雄	数森 秀章	中澤 兼一	松井 博史
内田 容子	田窪 康史	平井 啓之	村田 元
大霜 貴広	富沢 秀樹	平野 巨通	山本 勝則
大月 力	友田 俊之	福田 耕嗣	吉谷 浩一

＜法人役員・評議員・職員等（五十音順）＞

乾 賢一（名誉教授）	西口 工司（教授）	西野 武志（名誉教授）
中谷 庄吾（課長）	浜崎 博（名誉教授）	

（2023年2月28日現在）



KPUnews No. 213

2023年4月発行／編集：KPUnews編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691（企画・広報課）

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。